

第 42 期第 10 回理事会議事録

日 時：2023 年 8 月 9 日（水） 13 時 00 分～16 時 25 分

会 場：日本気象学会事務室（Web 会議方式）

出席理事：佐藤薫，橋田俊彦，青柳暁典，荒川知子，池上雅明，稲津將，植田宏昭，佐藤正樹，高谷康太郎，竹村俊彦，坪木和久，中村尚，橋本明弘，早坂忠裕，堀之内武，渡部雅浩，以上 16 名（理事数現在 20 名）

欠席理事：榎本剛，斎藤篤思，竹見哲也，三好建正

出席監事：鈴木靖

欠席監事：吉田聡

その他の出席者靖：勝山税，斎藤誠一郎，萬納寺信崇（事務局）

議 題

1. 協議事項

1) 会員の新規加入等について

新入会員 83，退会 15 を全会一致で承認した。2023 年 8 月 7 日現在，会員数 3,468 名で個人会員は 3,276 名。

2) 第 42 期第 9 回理事会議事録の確認

議事録案について，全会一致で承認した。

2. 報告事項

1) WG からの報告

「天気」と関連する会員サービスの検討 WG・・・以下の内容が報告された。

・7 月 24 日に第 7 回会合を開催した。検討を進めている。

理事から，「天気」に気象台の調査や，学位論文の概要を掲載するなど，コンテンツの強化が重要である旨の意見があった。

2) 業務執行理事の報告

庶務担当執行理事・・・以下の内容が報告された。

・掲載許可

①申請者：川瀬宏昭

【転載元】

掲載誌：Scientific Online Letters on the Atmosphere（2020 年）第 16 巻，125-131 ページ。

著 者：Takafumi Miyasaka, Hiroaki Kawase, Tosiya Nakaegawa, Yukiko Imada, Izuru Takayabu

タイトル：Future Projections of Heavy Precipitation in Kanto and Associated Weather Patterns Using Large Ensemble High-Resolution Simulations

掲載図：図 1(a): Relative frequency of daily precipitation in the Kanto area (from grid cells in Fig. 1d–e) based on d4PDF-RCM. (関東平野の日降水量の頻度分布)

【転載先】 大気環境学会誌

・ 後援名義等使用依頼受付

①名称：第 9 回 全球エネルギー水循環プロジェクト国際会議 (The 9th Global Energy and Water Exchanges Open Science Conference : 略称 The 9th GEWEX-OSC)

主催：全球エネルギー水循環プロジェクト国際事務局 (International GEWEX Project Office)

期日：2024 年 7 月 7～14 日

会場：「京王プラザホテル札幌」(北海道札幌市)

名義：後援

②名称：公開シンポジウム「我が国の衛星地球観測に関する統合的戦略立案」

主催：日本学術会議地球惑星科学委員会 地球・惑星圏分科会

期日：2023 年 9 月 12 日

会場：日本学術会議講堂

名義：後援

③名称：2023 年度国際地学オリンピック

主催：特定非営利活動法人 地学オリンピック日本委員会

期日：2023 年 8 月

場所：オンライン大会

名義：協賛

④名称：2023 年度「日本ヒートアイランド学会 第 18 回全国大会」

主催：日本ヒートアイランド学会

期日：2023 年 9 月 9～10 日

場所：熊本大学黒髪南地区

名義：協賛

⑤名称：No23-60 講習会「実験流体力学 流体計測の基礎」

主催：一般社団法人 日本機械学会

期日：2023 年 8 月 28 日

場所：オンライン開催

名義：協賛

・ 寄附者リスト (2023.6.2～2023.8.8)

なし

会計担当執行理事・・・以下の内容が報告された.

- ・2023年5、6、7月分の収支及び現預金検査報告
- ・流動資金（運転資金）の月ごとの推移
- ・日本気象学会夏期特別セミナー補助金申請補足資料

理事から以下の意見があった.

- ・科研費が認められなかったため、390万円の減収となる.
- ・2024年は天気完全オンライン化する. これによる会員数の増減を注視する必要がある.

3) 委員会報告

企画調整・・・以下の内容が報告された.

- ・気象学会の特定寄付等に関して、寄附募集の事業案などの検討状況以下の意見があった.
- ・公益法人として特定寄付を募集するならば社会一般に裨益がある事業であるべき。
- ・はじめは一つか二つの事業からはじめて手法を学ぶようにするとよいのではないか。
- ・寄附の効果が理解しやすい事業を選択するのがよい。
- ・出版にかかわる事業では、著作権、原稿料、印税なども検討する必要がある。
- ・寄附募集の周知の方法、集金方法の多手段化なども考慮・検討する。

講演企画・・・以下の内容が報告された.

- ・2023年度秋季大会の準備状況
- ・2024年度春季大会の準備状況
- ・2023年度春季大会アンケート結果のまとめ

理事から以下の意見があった

- ・口頭発表時間が短いので対策を考える必要がある.
- ・口頭発表の受入れ数には限界があるので、ある程度はポスターに回って頂く、1人当たりの口頭発表可能数を2件から1件にするなどの対策を考える必要がある.
- ・現地大会のオンラインポスターは嫌われる傾向がある.
- ・2024年秋季大会のポスターは現地開催を計画中.

天気編集・・・以下の内容が報告された.

- ・Vol. 70 No. 6, 7, 8, 9 (2023年6, 7, 8, 9月) の掲載記事と、Vol. 70 No. 10, 11 (2023年10, 11月) の予定記事.

気象集誌編集・・・以下の内容が報告された.

・ Vol. 101 No. 4 (2023 年 8 月) の掲載論文と, Vol. 101 No. 5 (2023 年 10 月) の掲載予定論文. 審査中の論文リスト.

理事から以下の意見があった.

- ・今年度の投稿が非常に少ない.
- ・各大学において転換契約がなされた論文誌に流れている可能性がある.

SOLA 編集・・・以下の内容が報告された.

- ・論文の投稿・公開状況
- ・2023 年 5~6 月の掲載論文: 5 編
- ・SOLA 特別号提案書「豪雨をもたらす停滞性降水系—線状降水帯—研究の新展開」

表彰関連・・・以下の内容が報告された.

・山本賞の各候補者推薦委員会から 2023 年度の候補者について選定理由が報告され, その内容について審議が行われた. 受賞者決定のため, 後日に理事による電子投票を行うこととした.

- ・秋季大会に松野賞の多数のエントリーがあった.

理事から以下の意見があった.

- ・山本賞が単一の論文賞であることが完全に浸透しておらず複数の論文リストが提示された推薦があったため審議に時間がかかった.
- ・推薦者に出し直しを依頼するのが良い. 賞の名前は頻繁に変えるべきでない.

部外表彰・・・以下の内容が報告された.

- ・令和 5 年度東レ科学技術賞および東レ科学技術研究助成の候補者募集中 (2023 年 9 月 8 日締切).
- ・令和 6 年度科学技術分野の文部科学大臣表彰に 1 名の候補者を推薦済 (7 月 20 日) 結果は来年の 2~3 月頃.
- ・第 40 回井上學術賞受賞候補者募集中 (2023 年 9 月 20 日締切).
- ・第 44 回猿橋賞候補者の募集が開始 (2023 年 11 月 30 日締切).
- ・令和 5 年度 東レ科学技術賞および東レ科学技術研究助成の候補者募集 (2023 年 10 月 10 日締切)

気象災害・・・以下の内容が報告された.

- ・情報交換会 (第 42 期第 2 回, 6 月 28 日): 天候の予測研究や見通し, 委員等からの話題提供等の情報交換を行った.
- ・気象災害特設ページの開設: 7 月 16 日「令和 5 年度梅雨前線による大雨に関する情報, 調査・研究成果」(https://sites.google.com/metsoc.or.jp/saigai-tokusetu/home/r05_baiu)
- ・風工学シンポジウムとの連携: 第 28 回風工学シンポジウム (2024 年 12 月 2~4 日予定) の学協会窓口は竹見副委員長が担当する.

・学術会議・防災学術連携体との連携：

①「関東地震 100 年企画」事業として第 16 回防災学術連携シンポジウム（7 月 8 日、日本学術会議）開催と記念冊子を発刊し気象学会からも投稿（https://janet-dr.com/090_abroadandhome/KantohEQ100th_book_A4.pdf）

②第 5 回「防災に関する日本学術会議・学協会・府省庁の連絡会」（8 月 8 日、学術会議）を「防災・減災を担う人材をどう育成するか」をテーマに開催（https://janet-dr.com/060_event/20230808.html）

・ぼうさいこくたい 2023（第 8 回防災推進国民大会，9 月 17-18 日，横浜市）：第 17 回防災学術連携シンポジウムとして「防災科学からみた関東大震災の回顧と展望」のほか，JpGU が開催するポスターセッション，横浜国立大学によるセッションで気象関係の発表を予定。

教育と普及・・・以下の内容が報告された。

・夏期大学 8 月 5～6 日実施 オンライン テーマ：新しい気象学 2023，参加者約 160 名 気象庁の後援名義使用許可について，講師等の性別に偏りがなく，事故防止・感染対策の具体的計画，収支計画書の確認があった。次回も指摘される可能性が高い。収支について，夏期大学だけが利益を得られる行事であり，このことが指導事項となる懸念あり（他行事は全て持ち出し）。

・公開気象講演会：11 月 19 日（日）予定，オンライン，テーマ：雪

・女子高生夏の学校：来年度については人材育成と相談

・特定寄付に関する検討：現在行っている教育普及活動等に寄付を頂ければ活動がしやすくなることを期待。

理事から以下の意見があった

・教育と普及は小倉基金から活動費が出ており，特定寄付の要求は難しい。

国際学術交流・・・以下の内容が報告された。

・第 3 回小倉特別講義の準備は進んでいる。

・2024 年秋季大会は日本が第 4 回 ACM のホスト。第 4 回小倉特別講義を予定。

人材育成・男女共同参画・・・以下の内容が報告された。

・「男女共同参画学協会連絡会」の「科学技術系分野における男女共同参画推進に向けての要望書」案についての意見公募を学会 ML にて実施

広報委員会・・・以下の内容が報告された。

・ウェブリニューアル WG の日程を 8 月下旬で調整中。「天気」のオンラインの拡充対応や一般向けのトップページのデザイン等について作業を進める。

4) その他

①春季・秋季大会のあり方に関する論点整理・・・6月に開催した大会関係者への大会開催の考え方の説明と課題等に関する意見交換での論点の報告が行われ、それを踏まえて、理事長から以下の提案があった。

- ・近年、大会運営のための人的リソースが苦しく、限界が来ている状況との認識がある。今後の大会のあり方について、例えば、多くの地球惑星科学の学会と同様に、春の大会の全部あるいは一部の機能を JpGU の連合大会に移し、学会独自の大会を年1回の開催とする可能性なども含め検討を行いたい。次回10月の理事会でWGを立ち上げるようにしたい。

提案を受けて、以下の議論があった。

- ・大会についてのみ議論するのではなく、まず包括的な長期ビジョンを議論すべき。
- ・コンサルの結果が出る12月の理事会の後から検討すれば手戻りが無くてよい。
- ・包括的な議論は必要だが、そのあとに個別の議論を行うと時間がかかる。並行して行うのが良い。
- ・議論の進め方として、コンサルの結果を待たずできるところから検討を始め、包括的な観点も同時並行的に行いつつ、来年の総会に大会のあり方を示すスケジュール感がよい。
- ・大会のあり方といっても、気象庁・気象台と学会、支部のあり方の議論も必要。
- ・コンサルの提案については気象学会で精査し納得したうえで取り入れることになる。
- ・地方の大会実行委員会や支部は疲弊している状況があり、持続的な大会運営とはなっていない。
- ・支部によって気象台との関わり方が違う。大局的な視点から大会の議論が必要。
- ・WGで集中的に議論するのが効率的。

議論の結果、10/6の第11回理事会で趣意書を提出しWGを立ち上げる方向で進めることとなった。

②コンサルタント委託業務委託中間報告・・・稲津理事から以下の内容が報告された。

- ・ヒアリング実施状況：16名を対象に実施中
- ・アンケート実施状況：全会員に対して無記名で実施中
- ・12月の第12回理事会に報告書が提出される見込み

以上について、議事録を作成し、理事長および監事が記名押印する。

2023年10月6日

公益社団法人日本気象学会

理事長 佐藤 薫

監事 鈴木 靖